

私は聞こえるんですけども。商売人の感覚からいくと、将来的にそういった事例が出てくるかもしれない場合には、それ以上の投資もしないし、てこ入れもしないということなんですわね。

だからその辺も含めまして、今後長期の空洞化対策をやっていただけるとするならば、しっかりシミュレーションをかけていただきながら、城下町らしい姿が残っていくように、私なりに急告をしておきます。よろしく願いしておきます。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 例に出させていただきましたのは、私は病院のことを発表させていただいた時期と違う平成17年と対比した平成21年というふうなことでお話をさせていただいたつもりでした。そういう中、今巖原の町の中に見受けられますのが、若い人たちが自分で店を出していくことも、ちらほら散見できます。どうかして、そういう方たちが新しい商業っていいですか、そういうものをつくりだしていける環境とか気持ちとかいうのをつくっていくのが、行政の役割だと思っておりますので、しっかりと取り組んでいきたいと思ひますし、巖原の立ち位置というものは自分自身、中学以来生活して十分に理解しているつもりでございます。

以上でございます。

○議長（作元 義文君） 10番、波田政和君。

○議員（10番 波田 政和君） 大変ありがとうございました。

最後になりますけども、今の若者が城下町に残っているんな事業展開とか、そういう姿が望ましいように、誰も考えたら、後継者を生むつもりでも大事なことと思ひます。そう市長が考えてあるとするならば、もう少し補助金の活用とか、金融機関の対応とかが簡素化してやっていけるような、また1つの例でも考えていただきながら、今後対馬を再生をさせていただきたいと、このようにお願いしまして、私の質問とさせていただきます。本日はありがとうございました。

○議長（作元 義文君） これで、10番、波田政和君の質問は終わりました。

○議長（作元 義文君） 昼食のため暫時休憩します。開会は午後1時から行います。

午前11時54分休憩

午後1時00分再開

○議長（作元 義文君） 再開します。18番、大部初幸君。

○議員（18番 大部 初幸君） こんにちは。新政会の大部です。通告書に従いまして、2つの質問をさせていただきます。

私は、この14日に一般質問通告書を出したんですけど、その後、今、燃油の問題とかがいろいろ議題になって審議されてますけども、また違った角度で私も質問をさせていただきたいと思

います。それでは、通告書に従いまして質問をさせていただきます。

まず、魚類の輸送費について、対馬は言わずと知れた水産の島です。その中でも、真珠養殖、イカ釣りの盛んなとき、島とはいえど、こんな景気のいい島があるだろうと思われるほど、6町、どこの町も景気に活気づいていました。

しかし、真珠業界の低迷と、対馬島内で一番多いイカ釣りの低迷で、対馬はどの町も火が消えてしまいました。そういう中で、昨年の暮れから、福岡までの魚の輸送費の補助が実施されています。燃油が高騰しつつある中で、漁師にとっては本当にありがたい補助だと思います。今現在は、一箱につき福岡まで200円、そのうちの80円が補助金です。国が3分の1、市で3分の1の内訳です。

今、イカ釣りの集魚灯に使うA重油が、昔のガソリンの1リットル単価まで上がっています。それにも増して、対馬の漁師は本土の漁師と違うのが、本土の漁師はその日のうちに市場で入札、対馬は1日遅れの入札になるから、どうしても商品価値は下がり安値になります。

燃油は国の問題ですから、すぐに下がるとは思えません。漁民は燃油の高騰で出漁もできない状態です。燃油に対する補助金は出してもらえないでしょうかとお尋ねするところでしたけども、もう21日の長崎新聞にも、市で最大10円の補助ということが出ております。

また、先ほど言ったように、角度を変えた質問をさせていただきます。

燃油に対する補助金は出してもらえないでしょうかということでしたけども、そういう状態です。

また、そのような中、ありがたい運送補助金です。少しでも補助金が多くしてもらえないかお尋ねをいたします。

2点目、学童保育について、今現在、対馬島内で、厳原町、美津島町、豊玉町の3町だけが学童保育を取り入れています。日本国内を見ても、お母さんたちの働く姿が日常になっているし、対馬でも、そうだと思います。夜遅くまでお母さんたちが働いて、生活を助けている家庭がたくさんあります。そのような環境で一番被害を受けているのが小さい子供たちです。

学校が終わって家に帰っても、親が遅くまで仕事で帰ってこれず、おなかをすかせて親の帰りを待っている子供はたくさんおります。それを解消するのが学童保育です。

下地区3町は実施をされていますが、上地区の3町はなぜ実施されていないのかをお尋ねします。

それと、私が、このたびの選挙運動中に、美津島町内でお母さんたちにお聞きしたのが、現在のおやつ代が1,000円ですが、あと2,000円ぐらいまでは負担をします。おなかをすかせて帰ってくる子供を見るよりも、負担は少し増えてでも、そのようにしてほしいとの要望です。

その点について、2点お尋ねをします。市長、よろしく申し上げます。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 大部議員の御質問に答えさせていただきます。

私が小学生のころでした、比田勝の港にいっぱい船が、身動きとれないほど入ってるという状況がありました。まさに、対馬中があの様な活気を呈していたんだろうなというふうに、今お話を聞いて思い出したところでもあります。そのあたり、そのころの水産業の活況というものをどうかして取り戻したいという思いで、昨年11月から輸送コストのことに取り組みを始めたところでもあります。

この問題に関しましては、過去から、大部議員をはじめほかの議員からも、どうか対策を打てないかというふうな提言等を受けてまいりました。

昨日も申し上げましたが、水産業は、やはり対馬の基幹産業であるというふうに思います。この基幹産業がほかの産業へ及ぼす影響ということを考えたときに、まず引っ張っていただく水産業に対して、輸送コストのことが足かせになってはいけないだろうという思いで、11月に組み立てて、そして単独で動き始めたところでございますけれども、今年3月から、国のほうから、補助金が構築しようという話もありました。

そこで、3月からは、それまで4分の1の補助だったものを3分の2にするというふうに踏み込ませていただいたところでございますが、先ほど、質問の中でありましたように、1箱200円という、私どもは、11月からは、それを補助基本単価という形で組み立てておりました。

先ほど言いましたように、3月から、国のほうが補助をするというお話をいただいたところでございますけれども、いかんせん、島と本土との海上輸送分について、国のほうからはというふうな話があり、3分の2という、国のほうが3分の1、そしてうちが3分の1というふうな組み立ててでございますけれども、そういう中、200円という補助単価というのが、基準単価が120円に落ちるといふようなことになっておりますけれども、私ども、昨年11月から組み立てた部分、そして、先ほどお話がありました、燃油高騰対策の部分にしてもしかりなんですけれども、基本的に対馬市としてできるだけ国に先んじて制度を組み立てていって、そして、国に、後追いでもいいから制度をつくってもらいたいというふうなやり方を、今基本と考えております。

そのことが、就業者の方たちにとって、幸せにつながるだろうという思いでおりますけれども、残念なことに、先ほど言いましたように、補助メニューが、私どもが思ってたよりも狭まった形になったものですから、大変申し訳なく思っておりますけれども、しかし、国が踏み出すことになったことに対しましては、一定の御理解をいただきたいというふうに思っております。

全てを補助できれば当然いいんですが、ほかの自治体との見合いの問題とかいろんな、やはり国の交付要綱の問題とか、さまざまな問題があります。そのあたり、大部議員がおっしゃりたい

ということも十分に私自身理解はしておりますけれども、本市としまして、苦心して組み立てた制度でございますので、また、その点、御理解をいただきたいなというふうにお願いを申し上げます。

また、昨日と重複するところもありますけれども、燃油の対策につきましては、漁師の皆様方がリッターやはり60円台、というか60円ぐらいが採算ベースなんだということを、もうこの何年、ずっと聞かされてきております。

そういう中、私が島内を回るとき、やはり海は風いで潮も悪いはずなのに、出ない船というのをずっと見かけたときに、漁師さんと話したときは、やはり、このどんどん上がっていくA重油、これがどうかおさまらないと、自分らはやはり休まざるを得んというふうなことを、意見を、ずっと、浜でも聞いたりもしました。

どうかして、先ほど、冒頭言いましたように活気を呈するためには出漁していただかないことには、活気を呈することは不可能だと思っておりますので、そのあたりを組み立てたいと思っずとおりました。

国のほうが、燃油対策を打ちますよということは、春ごろから動き出しがずっとあっておりました。これらを受けて、私ども市として、どのようにしたら提言ができるかなというふうに、逆に思いまして、職員と一緒に、この組み立てをずっとやっておりました。

国の方針が出たのが6月5日でございますけれども、そのセーフティーネットの3階建てのやつを見たら、私、正直言って啞然としました。それは、燃油高騰を容認したことになると、国も、これから先、漁師さんたちが漁をしていくためには、やはりどうかして2階建ての、2階部分、3階部分を、80円と95円ということで設定をさせていただいた場合は、2階部分以上についてはいいけれども、ともかく、しかし、採算ベースから80円までの部分について、何か国のほうの方向性が、本当は示してほしかったなという思いでございましたけれども、先ほど言いましたように3階建てのセーフティーネットという形になった。

ならば、このセーフティーネット、原油高を容認していく施策に触れたと思った瞬間に、セーフティーネット共済に、やはり皆さんが加入してもらえる環境をつくっていくことが、私ども、60円以上全てを見るなんて到底不可能ですし、ならば、共済加入ということを促進していくためにも、それに見合う油、仮に限度10円の部分を捻出することで、共済も加入もしていただき、漁民の人たちも安心して漁に出ていかれる環境をつくりたいという思いで、この組み立てをしたところです。

できますれば、国のほうが、私どもの今回出しました制度を追随してもらってから、水産庁のほうが次の動き出しをしていただけたらというふうな思いで、こちらは、逆に水産庁のほうに働きかけをしていきたいなという思いも持っております。

財源見合いの中で、漁師の皆様方に、十分な補填ということができない部分もございますけども、どうか、負担軽減を図っているというふうな御理解をいただきたいというふうな思いであります。

次に、学童保育の問題がありました。

今回の補正でも、子ども夢づくり基金というものを、3月の議会において基金条例の可決をいただきました。今回、その資金造成を予算化をさせていただいておりますけども、当然、子供というのが私ども対馬にとって大切な未来をつくる宝であります。そういう意味において、どのようにして、その子たちが健やかに育っていけるかということを中心に頭の中で描いておるところでございますが、御指摘の学童保育につきましては、確かに巖原、美津島、豊玉地域に5カ所ということであります。豊玉の学童保育については、峰町もカバーしているというふうにこちらは考えております。

先ほど御指摘がありました、上地区の学童保育の件でございますが、これは事業を希望する法人等がなかったこともあり、長らく空白地域でございました。北部地域の方から要望が多かったわけではありますが、このたび学童保育を設置したい旨の相談も出てきております。対象の校区は上県の一部の校区を加えたいというふうなお話も伺っておるところであります。

私ども対馬市としましては、設置する方向で協議や事務を進めております。希望されている法人では、今後、諸般の事務申請手続等を進めて、順調にいけば、今年度中に業務開始をできるようになるよう、私どもも協力をしていかなければいけないというふうに思っております。

最後のおやつのお話がありました。このおやつの問題、確かに、保護者のほうから負担してもいいからというお話、大変ありがたいお話だというふうにも思います。ところが、やはり家庭によってばらつきが、どうしてもあったりして、子供たちの中でのいさかいが、そのことで起こるということもいかなかなとも、絶対起こるとは言いませんが、おやつゆえに起こりかねないことなのかなというふうにも感じております。

また、保護者の就労の関係で時間がばらばらになります、お迎えの時間とかいうのが。そうなると、確かににおやつからの次の家庭に帰ってからの時間までが、相当の時間を有する子供も出てくるかと思いますが、そこにつきましては、できれば保護者の皆様の責任において、また、その施設との協議というものを十分に図っていただいて、ほかの子供とのバランス等を考慮していただいて、よりよい方向を出してもらったらいいいのかなと思っております。

できますれば、行政として、その部分についてはお許しを願いたいと思っております。

○議長（作元 義文君） 18番、大部初幸君。

○議員（18番 大部 初幸君） まず、1点目の魚類の輸送費なんですけど、これ、結構いい補助金制度なんですけど、漁民に割と知れ渡ってないんです。僕らもそうなんです。こういう話を

したら、知らない漁師がほとんど多かったです、この前まで。

実際に、6月初旬に、11月、12月ですかね、補助が入った時点で、ああ、というような感じが多いんです。正直、そういう程度なんです。その中で、いろいろ問題になってるのが、例えば、私は美津島漁協ですけど、厳原漁協で揚げたとするじゃないですか、荷揚げを。この荷揚げを厳原漁協に揚げた、例えば100箱なら100箱揚げたやつも、補助になるというのと、なっていないという説なんですけど、これはどちらが本当なんですかね、一つ一つかしてください。比田勝部長でいいです。

○議長（作元 義文君） 農林水産部長、比田勝尚喜君。

○農林水産部長（比田勝尚喜君） 所属外の漁協に水揚げした鮮魚の輸送コストということによってよろしいでしょうか。（「はい」と呼ぶ者あり）

この件につきましては、市のほうといたしましては、漁協のほうには、たとえ所属外の漁協に水揚げしたとしても、それは、その水揚げした漁協のほうから所属する漁協のほうへ伝票を回していただいて、申請することは可能ですといったような説明をしてきているような状況でございます。

○議長（作元 義文君） 18番、大部初幸君。

○議員（18番 大部 初幸君） そのところがきちっと浸透してないんです。だから、今問題になってる、それができてるというところと、できてないというところがあって、名前はあれですけど、ある漁協の総会でもそれが出たらしいんです。

今の時点では、そういうのであって、何かいい補助制度なんですけども、実際的にそういうのが、ああだからこうだらというのでしてますので、僕は、これ、あえて質問させてもらってるんですけど、島内やったら、漁協から漁協やったら、必ず伝票回しすれば補助はあるということではないんですね。わかりました。

こういう制度で、これをフルに活用していかないと、やっぱ、先ほど市長も言われましたように、今、対馬島内は、すごいやっぱ形が変わってますよね。イカの水揚げ、実際に、11月、12月は対馬市単独でやった補助ですけども、補助金余ったんやないですか、実際に、予算よりも。なぜ余るか、沖に出てないんです、燃油高騰で。普通は補助制度をしたのを足りないというのが普通なんですけど、補助枠が余るということですよね。今の対馬の現況というのはこの傾向ですから、まだ余ると思います。9,000幾らというセーフティーネットの問題もいろいろありますけども、とにかくにも、やっぱり今の対馬の置かれてる現況というのはひどいものがあります。

私も、そういう中で、いろいろ、それなりにちょっと調べてみた中で、今、12の漁協がありますよね。12漁協の中で、23年度で4,528名おられます。正組合員が、その中で1,860名、

准組合員が2,668名おるんです。

それで、これを年齢別に見たとき、一番組合員が多いのが豊玉漁協です。これ780名、23年度の漁協業務報告書ですけど、780のうちの537名が60歳以上なんです。50歳以上が165人、もう40歳になったら56人しかいないんです。

これを比率で割った場合、60歳以上が69%、約7割です。これが一番多い豊玉ですけど、私たちの美津島漁協が、60歳以上が414名、組合員数が688ですけど、これが割ったら60%です。

うちの漁協は、これでもいいほうなんですけど、尾崎のほうがマグロやってるやないですか、マグロの従事者がふえたから、これ若いもんが幾らかおるから、このパーセンテージになっただけで、ほかの単協を割った場合、例えば厳原漁協でも、60歳以上が、組合員数が633の中で60歳以上が409名おるんです。50歳になったら137名しかいないんです。60歳以上、これ割ったら65%、大体、60歳以上の組合員は、この対馬島内は大体65%ぐらいになります。

だから、これを考えた中で、若いもんが全然育っていったない現状ですよ。それどころか、市長もこの前ちょっとお話されたように、お聞きのとおり、対馬では売船がどんどんふえて、どうするかといったら、若い人は島外に出ていったり、またほかに小船を見つけてやっていく、大きい船はほとんど操業できてない現状が、今もう実際に出てきてるわけです。

ということは、対馬の一番基幹産業である水産業が衰退するという、もう目に見えてるやないですか。これ、平成4年、5年、6年が一番ピークやったですもんね、対馬は。三百二、三十億あったでしょう。イカ釣りがやっぱり80億、100億、真珠がやっぱり80億、100億と言われた時代ですよ。それからずうっと9年を境目に下降線たどって、ことしの23年度の業務報告書が127億7,000万、真珠入れても140億です。イカ釣りで54億2,000万、もういいときの約半分、一本釣りで35億7,900万という、こういう状態まで陥ってるわけですよ、市長。

それを、どうだこうだということやないとですけども、そういう中で、やっぱり運送費の補助、燃油の補助、先ほども話がありますが、セーフティーネットがひとつやっぱり、今度は漁民にとっては大きな負担がかかってくると思うんです、確実に。やはりそれは当り前のことでしょうけど、今の現況で、3ランクになっておりますけど、これを加入して実際にやっていける漁民が、今度、果たしてどれくらいおるかということです。今のままやったら、恐らく操業できなくて、待機児童やないけど、待機船ばっかしになると思います。

今、市長、変な話ですけど、今の漁師のお父さんは下向き現象が起こってるらしいんです。なぜ下向き現象かということ、家におっても、収入は当然入らない。沖に行かないじゃ黒字も出ない、

赤字も出ない。しかし、家庭でやっぱり奥さんが一生懸命子供を育てるのを頑張る、お金はどうしても要るやないですか。母ちゃんの顔が見られんけ下向き現象になる。仕方がないから沖に行く、11時、12時までやってもイカが釣れない、燃油のことばかり心配になるから、また帰る。帰って奥さんが、どうやったって言ったら、いや赤字やったって報告すれば、当然、もう下向き現象で、朝ご飯食べる時も、本当で、何であんたそう下向く、下向くのというと、いや上向いたら母ちゃんから何か言われそうになるけ下向くというような感じなんですけどね。

いや、これは本当にそんなんあってるんですよ。もう私たちの近くでも、2カ月ぐらい動いてない船、ざらにありますよ。それは知ってると思いますけど、2カ月船を動かさないということは収入はないわけでもんね。でも出ていく品はどんどん出ていくということなんです、市長。

だから、セーフティーネットの問題も、できるだけ何とかいい緩和方法をとって、基幹産業である水産業を、何とか救えるような手法はないものか、こういう一般質問ですから、市長のよき答弁があれば、ひとつお聞きしたいと思います。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 今回の燃油高騰対策に対する、ある意味、交付の条件としてセーフティーネット加入というものを、あえてつけさせていただいたという話を何度となくさせていただいておるわけですが、来年以降、燃油が下がると、それが見込めるならば、私はセーフティーネットの問題を交付条件にはあえて上げる必要はないというふうに思っています。

先ほど言いましたように、3段階目をつくったという意味が、セーフティーネットの、という意味を自分自身読んだときに、これを容認されたなど、ということは、今、私どもが燃油対策をとったとしても、それを超える部分というのは、市も支出はできかねる部分です。ならば、この部分に加入をしてもらって、来年以降も出漁がしやすい環境を、皆さんでやっぱりつくってください。ただし、円安原油高というものを、ある意味、どこかで容認されたというふうに、私どもは感じておりますので、ならば、私どもが今、1階部分をこういう形でやろうとしているわけですが、国にここの部分の補填等をさらに考えてもらおうというふうに促していきたいなというふうな考え方で、このような制度をつくらせていただいたということを御理解いただきたいと思っております。

また、このセーフティーネットに関しましては、確かに、加入ということになった場合、融資等もございます、制度として、それらが無利子融資だったと思いますけども、それらも活用してもらいながら、この制度化に、私どもが市として踏み込んでいきます、ある意味、上限10円の、ここの部分の意味合いを考えていただければ、たしか前回といたしますか、昨年といたしますか、14円程度出てるんだというふうに思います。セーフティーネット、2階建ての部分で、そうなりますと、その1対1でしたから、7円ぐらいを漁師さんたちのほうは補填されてるんだろうと



思います。

その1階部分の、仮に7円といったとき、私どもの1階の半分というのが、それを補って余りあるのではないかというふうな考え方もしております。

○議長（作元 義文君） 18番、大部初幸君。

○議員（18番 大部 初幸君） 今、市長から、そういうふうで来年下がる見込みがあればという話ですけど、こんなのは、割と漁民知らないんです。市長の意図というのがよく見えなくて、今、セーフティーネットにもそういう無利子みたいな補填される融資もあるということ、ほとんど知らないと思います。

だから、こういう場で、せっかく生放送になってるわけですから、聞いている漁民は、ああ、そういうことかと、そういうのもあるんだなというのがわかったと思います。僕らも知らなかったですよ、正直言って。こんなのが、やっぱり今の漁民さんというのは、どちらかといえば、やっぱりそういうところは弱いから、私をはじめに、だから、こういう場を私も使わせてもらって、平たく言いたくて同じ質問をさせてもらったわけです。

その中で、2月28日まで、大型魚は1箱当たり800円の4分の1の補助、200円になってるやないですか、200円でしょう。それを、資料にもらった中では、3月1日からは、大型魚30キロ以上というのがうたわれてないんですけども、これはなくなったんですかね。大型魚30キロというのは恐らくマグロの出荷と思うんですけど、私がもってる資料の中で、25年3月1日からというのは載ってないもんですから、大型魚が外されたのかなと、もう均一で200円でいくものか、そここのところも明確に教えてくださいませんか。

○議長（作元 義文君） 農林水産部長、比田勝尚喜君。

○農林水産部長（比田勝尚喜君） お答えいたします。

3月からの補助におきましては、1箱200円であったものが、陸上輸送のほうを除いたために、1箱当たり120円の3分の2ということで、80円を助成いたしております。

それと、箱に換算できないものについては、1キロ当たりで、1キロ当たり24円を上限といたして、これに3分の2ということで助成するようにいたしております。

○議長（作元 義文君） 18番、大部初幸君。

○議員（18番 大部 初幸君） 比田勝部長、大型魚の30キロの800円、今説明された200円わかるわけです。巖原福岡間が国道ということで、陸のほうは運送屋さんの中持ちというのが80円でしょ、残りの120円の3分の2、要するに80円が補助ということでしょ、ですね、ということは、私がお聞きしたのは大型魚、この資料には、大型魚30キロ以上は1箱当たり800円というのが、2月28日までの資料にあるんですよ。3月1日からのやつにこれが載ってないから、この分野が外れるんですかとお聞きしてるんですけど、もう1回お願いします。

○議長（作元 義文君） 農林水産部長、比田勝尚喜君。

○農林水産部長（比田勝尚喜君） この2月までは、1箱当たり800円を上限にいたしまして、これの4分の1以内といったことで補助を出しておりましたけども、国のほうの助成制度ができてから、箱に換算できないもの、例えば大型マグロとか、そういったものにつきましては、1キロ当たり24円を上限といたしまして、これの3分の2でございますので、16円を助成するといった考え方でございます。

○議長（作元 義文君） 18番、大部初幸君。

○議員（18番 大部 初幸君） そのように答弁してほしいわけですよ。そうしないとわからない漁民が結構おるんですよ。誤解を招く。

だから、そういう形できちっと言ってもらえればわかりますので、ありがとうございました。

まず、この水産業関係におきましては、もう私たちが言わなくても、どうしても行政が、市長の今の答弁でもわかるように、大事な基幹産業であるということで、そういうお考えですので、先ほど言ったように、セーフティーネットもできるだけそういう形で、市長の気持ちをしっかりと私たちも受けとめて、できるだけお応えするようにして、そしたらまた、漁民も来年に向かって、この便利さを少しでも自分たちも受けとめて、補助をありがたく受けとめられるような方法にとっていくようにしなくてはいけないと思います。わかりました。

それでは、2点目の学童保育に入ります。この学童保育は、私も、巖原町とか、全然そんなの回ってないんです、正直。

私、美津島町議になったとき、11年の9月の一般質問させてもらったんです。そのとき巖原町は、もう学童保育導入してたんです。美津島町はなかったんです、学童保育が。それで、私、11年の9月の美津島議会で一般質問をさせてもらって、美津島町も翌年の12年の7月より、鶏鳴小学校で空き部屋を借りて、最初は10名から12名でスタートしたんです。その指導に当たってくれたのが、学校の校長先生を退職された、校長先生たちにやっぱり町のほうで依頼をして、五、六人の校長先生上がりといったらおかしいですけど、その人たちが面倒見てスタートしていったんです。

そのときから、おやつ代が1,000円やったんです。私も資料を見たとき、対馬市内放課後児童クラブ状況表というのを、25年度のやつです。ある中で、巖原、あすか学童クラブと親愛児童クラブと、美津島が学童保育鶏鳴と学童保育鶏鳴第2クラブ、美津島2つ、巖原2つ、それからふれあい児童クラブが豊玉ですよ、梅仁会さんなってますけど、あすか児童クラブに、おやつ代というのは基本額に入ってるんですよ。入ってるんですよ。

だから、ちょっと不思議に思うのが、あすか児童クラブは、基本額に5,000円、5、6、9、11、2月、それが5,000円、4、7、12、1、3、これ6,500円、8月だけが

9,000円に、基本額なっています。

親愛児童クラブも月額5,500円、で、我が美津島町は6,000円におやつ代が1,000円、また別途入るわけです。梅仁会ふれあい児童クラブさんも基本額は5,000円なんです。それでおやつ代が別途1,000円なんです。

それで、僕も、今度、おやつのでいろいろ調べていってる中で、ここまで変わるかなというのは、これ安い高いは別として、委託補助金やないですか、どうしても、委託補助でやってるわけですから、これが、あすか学童クラブは、大体登録数で入札もされるとでしょうけど、あすか学童クラブは、大体児童数の65名の中の補助が646万7,000円、頭で割ったら9万9,493円になるんです。親愛保育所が52名の登録で638万5,000円ですから、52で割ったら12万2,788円になるんです。

美津島の学童保育鶏鳴は、委託補助料が487万、登録児童数が27名、これ27で割ったら18万370円になるんです。第2クラブは児童登録が22名、補助金が321万8,000円、14万6,273円に、1人なります。

ふれあい児童クラブが、児童登録が32名で、501万7,000円の委託補助料ですから、15万6,781円になるんです。

この差もちょっと矛盾してるなと思うし、これ安い高いか別なんですよ、私が言いよるのは、これは、あすかさんは、65名の登録で646万7,000円、これを頭で割ったら、今言うように10万切るんですよね。美津島は18万になるわけでしょ、1人頭で割った場合、この矛盾さが、何か、僕はちょっと不可解な点と、それと、先ほど言うように、別途1,000円ずつあるんです。基本額は6,000円、6,000円、で、1,000円。おやつ代は1,000円。

こういう中で、ちょっと何かおかしいというのと、市長が、中に、行政としては入りたくない、それはわかるんです。各家庭で、それは楽な暮らしの家庭もあるだろうし、いっぱいいっぱい1,000円であってほしいという家庭もあると思うんですけど、こういうのがちょっとおかしいから、私が言いたいのは。

あすか学童と、新愛児童クラブは、月額が5,000円、6,000円の中でおやつ代も含まれてるんです。美津島と豊玉は別途1,000円、おやつ代が。1,000円ということなら、25で計算したら、1日40円のおやつ代ですもんね。本当言うたら、おやつ代を40円にするというたら無理ですよ、何買っても。だから、こういうところが、僕は不思議に思うんです。

厳原も基本額でやっていけて、美津島は別途で1,000円、美津島とほかのところは、もらってやって、それで委託補助はそういうふうになっていくやないですか。

だから、あり方に矛盾があるのがちょっと不可解なんです。こういうところはどんなになってるんですかね。ちょっと僕はわからないんですよ、お聞きします。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 今おっしゃられました、各学童クラブごとの子供に割り戻したときの単価というのが差が出てるといってお話でございます。

当然、子供が一定の数いた場合の、そこにかかわる人件費、大人の人件費の問題というのがあろうかと思えます。これが、子供の数で一律単価というのは定めにくい部分がございますので、先ほどお話がありましたように、50名、60名集まるどころと、20名足らずのところとでは、おのずと単価差が出ているんだらうなというふうに思って聞いておりました。

おやつのお話がありましたけども、当然、園がつくって出すおやつのケースというのもここにはありますので、単純に、人件費の中で、極端に言えば、やれる部分もあります。つくるのは人がつくります。当然材料費等は要ろうかと思えますけども、それらが、この金額の5,000円の中に紛れ込んでるといふうなことなんだらうなというふうに思って聞いておりましたが、子供たちを受け入れることに差を出そうということは、決して考えておりませんが、あまりにも激しい差が、今のお話からすれば、見受けられるんじゃないかという御趣旨でしょうから、それらについて、再度調査をさせていただき、聞き取っていきたいと思えます。

そして、子供たちが平たく同じような形で保育が受けられる環境というものをつくっていただければというふうに思っております。

○議長（作元 義文君） 18番、大部初幸君。

○議員（18番 大部 初幸君） ぜひ、市長、そのようにしてください。

僕も、これ、資料をとってびっくりしてるのが現況なんです。委託補助料がどうしても同じ条件のお金なんですから、2つのクラブはおやつ代は一緒に基本額に入ってる。あとの3福祉のほうは、おやつ代別途取ってるやないですか。

こういうのも、ちょっとやっぱりきちんとせんと、わかるんです、頭数の多いところと少ないところの差というのは、当然わかるんですけど、一覽で見たときに、あまりにもちょっと矛盾というたらおかしいかもわかりませんが、ちょっと僕は不可解に思ったもんですから、どこもやっぱりあとの条項は一緒です。3時半ごろのおやつをつくって食べさせるとかいうのが入ってますけど、こういうのを、市長、今市長も初めてわかれたような感じですけど、僕も、この資料をもらって、ちょっとあんまりひどいなというのがあったもんですから、この場で言わせてもらってます。

それとまた、先ほど、上対馬のほうも、そういう年内という動きもあるということですので、ぜひ、学童保育は、今から少子化に入っていくって、執行体制はむずかしくなると思えますけど、やっぱり子供に格差のない行政をやってほしいんです。

地区に恵まれた子供は、こういうふうにして楽々というたらおかしいですけど、周りに、環境

に恵まれた育ち方をする。やっぱりちょっと外れたへき地、要するに悪いですけど、上のほうとか人口の少ないところは、学童保育も受けられない、中には塾に入ってるという話も聞いてるんですけど、塾に入れば親の負担は、どうしても、学童保育と違ってお金がかかりますから、先ほどの話とあれしますが、今、対馬の環境は、すごくそういうふうにして、収入に乏しくなってる状態ですので、子供たちに、そういう隔てのない行政をしていただきたいと思います。

そうしないと、やはり小さい子供が、市長も言われたように、早く帰ってくるお母さんもおれば、遅く帰ってくるお母さんもおるでしょうけど、やっぱりそこに、何とかして隔てのない育て方をしてやらんと、おなかをすかせて7時までお母さんが迎えに来ない子供なんか、それから自宅に帰って、お母さんが食事しよってみんですか、8時になるですよ。そりゃ1年生、3年生の、私のところも同じような孫がおるんですけど、やっぱり見かねたとき、自分の孫でも、これたちが8時までおなかをすかせてするということはないですよ。

だから、そういう環境に恵まれない子供に、逆に、学童保育の手厚さを、私は訴えたいと思います。

ぜひ、市長、そういうことで、上対馬のほうも、年内にそういう形で取り入れてもらいたいと思います。

もう時間ありませんので、私の質問はそういうふうにして、終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

○議長（作元 義文君） これで、18番、大部初幸君の質問は終わりました。

○議長（作元 義文君） 暫時休憩します。開会は2時から行います。

午後1時49分休憩

午後2時00分再開

○議長（作元 義文君） 再開します。

次に、3番、入江有紀君。

○議員（3番 入江 有紀君） 対馬市の医療崩壊といづはら病院跡のケアミックス型60床のことについて、市長にお尋ねいたします。

いづはら病院と中対馬病院の所有権は、どなたにあるのでしょうか。

質問2、いづはら病院、中対馬病院及び豊玉診療所のそれぞれの1日の平均通院患者数は何名ですか。

質問3、市長は、昨年の市長選挙でケアミックス型の病院、約60床を残すというビラをまかれましたが、私が知り合いの長崎県議に聞いたところ、いづはら病院のケアミックス型は残すこ